

4 風水害時の行動

早めの避難行動が大切です

風水害は、毎年襲われる可能性のある災害です。山間部の多い青梅市では、特に土砂災害に警戒しなければなりません。地震と異なり、台風接近や長雨が続くなど、ある程度事前に災害発生の予測をすることもできることから、早めの避難行動をとることにより被害を最小限にすることができます。

(1) 土砂災害

土砂災害警戒区域とは

土砂災害から、住民の生命を守るため、東京都が土砂災害防止法にもとづき指定した区域です。

大雨が降ったり、土砂災害警戒情報が発表された場合は、避難行動が必要な区域です。

土砂災害は、一瞬にして建物を破壊し、多くの人命を奪うおそろしい災害です。市では、土砂災害ハザードマップを作成し、警戒避難体制を整備しています。

土砂災害警戒区域 (1,465か所)
住民等の生命または身体に危害が生ずるおそれがあると認められる区域

土砂災害特別警戒区域 (1,388か所)
建築物に損壊が生じ住民等の生命または身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる区域
※一定の開発行為の制限、建築物の構造規制等が行われます。

土砂災害警戒情報

大雨警戒が発表されている中で、降雨による土砂災害の危険が高まったときに気象庁から発表される情報です。土砂災害のおそれがある地域にお住まいの方が避難を開始する目安となるものです。

土砂災害ハザードマップ

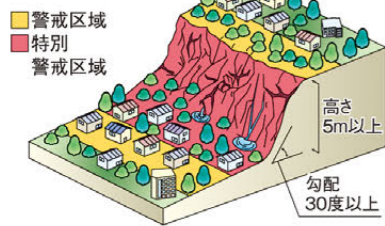
各地区ごとに土砂災害警戒区域を表示したマップで周知を図っています。市役所5階防災課、各市民センターで配布しています。市HPでも確認できます。また都建設局HPでは詳細図が確認できます(「都建設局 土砂災害」で検索)。

土砂災害の特徴と前兆現象

前兆現象がみられた場合は、すぐに避難し、市防災課に連絡してください。

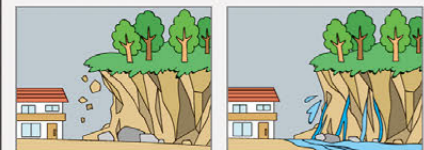
急傾斜地の崩壊 (がけ崩れ) 1,062か所

傾斜度が30度以上である土地が崩壊する自然現象



前兆現象

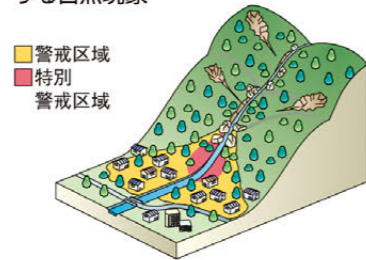
- がけから小石がパラパラと落ちてきた
- がけから水が湧き出てきた



○がけに割れ目ができた

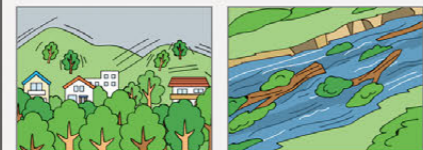
土石流 400か所

山腹が崩壊して生じた土石等または渓流の土石等が水と一体となって流下する自然現象



前兆現象

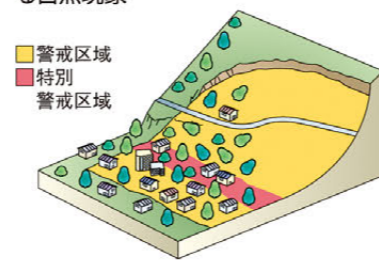
- 「山鳴り」といって、山全体がうなっているような音がする
- 沢や川の水が濁ったり、流木が混じっている



○雨が降り続けているのに、沢や川の水が減っている

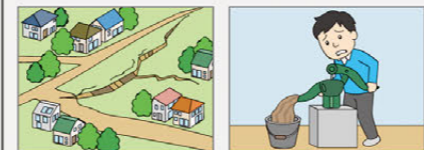
地滑り 3か所

土地の一部が地下水等に起因して滑る自然現象、またはこれに伴って移動する自然現象



前兆現象

- 地面がひび割れたり、一部分が陥没あるいは隆起した
- 地下水などの水が濁った



○池などの水の量が急に变化した

(2) 台風・ゲリラ豪雨

台風や大雨は、大きな災害をもたらします。被害に遭わないためにも、テレビやラジオ、インターネットなどを通して、台風や大雨に伴う警戒等の防災気象情報をいち早く知るところを心掛けるとともに、災害への備えをあらかじめ確認しておくことが大切です。

台風

台風の状況	気象庁の情報	地元気象台の情報	階級	最大風速
台風発生	熱帯低気圧に関する情報 台風情報 現在の状況(3時間ごと) 最大72時間先までの予報(6時間ごと)	台風に関する気象情報 (以後、暴風などの状況を通気発表)	強い	33m/s以上～ 44m/s未満
台風接近	暴風域に入る確率の発表 72時間以内に暴風域に入る確率が0.5%以上の地域に対して3時間ごとに発表	強風、大雨、高潮注意報など	非常に強い	44m/s以上～ 54m/s未満
台風上陸	台風情報 日本列島に大きな影響を及ぼす台風が接近しているとき(1時間ごと) 「台風○号は、○日○時ごろ、○○市付近に上陸しました。」	暴風、大雨、高潮警報など 土砂災害警戒情報 (重大な土砂災害のおそれがある場合)	猛烈な	54m/s以上
			階級	最大15m/s以上の半径
			大型(大きい)	500km以上～ 800km未満
			超大型(非常に大きい)	800km以上

マイ・タイムラインをつくろう。

マイ・タイムラインとは?

いざというときにあわてることがないように、**避難に備えた行動を一人ひとりがあらかじめ決めたもの**です。

「東京マイ・タイムライン」では、風水害からの避難に必要な知識を習得しながら、家族で話し合っ、マイ・タイムラインシートを作成することにより、適切な避難行動を事前に整理できるようになっています。

- ◆台風が近づいているとき ◆大雨が長引くとき
◆どなときに使うの? ◆短時間の急激な豪雨が発生するとき



マイ・タイムラインシート 東京都防災ホームページ <https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/mytimeline/index.html>

ゲリラ豪雨

ゲリラ豪雨とは、ゲリラ雨、ゲリラ雷雨とも呼ばれ、大気不安定な状態により突発的に起こる局地的な大雨のことを言います。積乱雲(雷雲)によって急に激しい雨が降り、降った雨が低い場所へ一気に流れ込むため、総雨量は少なくても、数十分で甚大な被害が発生することがあります。

ゲリラ豪雨から身を守るためには、天気急変に備え、最新の気象情報を確認することが大切です。

●ゲリラ豪雨が発生する可能性がある天候

- 真っ黒い雲が近づき、周囲が急に暗くなる。
- 雷鳴が聞こえたり、雷光が見えたりする。
- 冷たい風が吹き出す。
- 大粒の雨や「ひょう」が降り出す。

●車を運転中にゲリラ豪雨に遭遇したら

- 事故防止のため屋間でもライトを点け、速度を落とし、すみやかに停車できる場所へ移動し、雨が通り過ぎるのを待ちましょう。
- 鉄道のガード下や立体交差のアンダーパスなど、周囲よりも低くなっている場所が冠水していたら、無理をせず迂回をしてください。万が一、クルマが冠水した場合はすぐにクルマを止め、エンジンを停止させてから避難してください。

雷や竜巻にも注意しましょう!!

発達した積乱雲により、雷や竜巻が発生することがあります。屋外で行動する場合は、雷注意報や竜巻注意情報などの発表状況を確認しましょう。

すぐに身を守るための行動を!!



- 雷鳴が聞こえたらすぐ避難
- 建物の中や自動車へ避難
- 木や電柱から4m以上離れる



- 頑丈な建物の中に避難
- 飛来物に注意
- 屋内でも、窓や壁から離れる